

令和7年9月25日

6年生保護者様

加古川市立義務教育学校
両荘みらい学園
校長 神吉 直哉

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について（前期課程）

4月に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、「国語」「算数（数学）」「理科」の学習状況と児童・生徒の学校や家庭での生活実態についての調査が行われました。

今回の調査結果は児童の学力の限られた部分ではありますが、届いた結果を基に本校の現状を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

国語科 記述式問題で成果が見られる一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容で課題が見られます。

おおむね力がついていること

- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができています。（大問1三(2)）

これから力をつけていきたいこと

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がみられます。（大問2四ア・イ）

関連する問題番号

算数科 「数と計算」、「図形」、「測定」等の領域で課題がみられます。

おおむね力がついていること

- ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができています。（大問1(4)）

これから力をつけていきたいこと

- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることに課題がみられます。（大問1(1)）
- ・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がみられます。（大問2(4)）
- ・数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題がみられます。（大問3(3)）
- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことに課題がみられます。（大問4(1)）
- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がみられます。（大問4(4)）

理科 「生命」を柱とする領域で成果が大きくみられます。

おおむね力がついていること

- ・植物の花のつくりや受粉についての知識が身に付いています。（大問3(1)）
- ・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いています。（大問3(2)）

これから力をつけていきたいこと

- ・身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識を問う問題で課題がみられます。(大問2(1))
- ・「記述式」の問題の正答率が「選択式」・「短答式」に比べて低く、課題がみられます。(大問3(4))

生活・学習の状況

『自分には良いところがあると思う』と回答した児童・・・約80%

→自尊心の高い児童がいる一方、「自分にいいところがある」と答えるのに迷いのある児童も一定数みられます。

『人が困っているときは、進んで助けている』と回答した児童・・・約98%

『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う』と回答した児童・・・約98%

『友達関係に満足している』と回答した児童・・・約98%

→進級しクラスメイトが変わりましたが、良好な人間関係を築けていることがうかがえます。

『読書は好きだ』と回答した児童・・・約84%

→本校の児童は、日常的に図書館を利用する習慣が身に付いています。昨年度からの、学校図書館を中心とした取組の成果がみられます。

『地域や社会をよくするために何かしてみたい』と回答した児童・・・約84%

→昨年度より、ふるさとみらい科を中心として、公民館や地域と連携して取組んだ成果がみられます。

今後の取組について

国語科の調査結果から、文の中で正しく漢字を使うことに課題がみられました。日ごろから「できる学力」向上のために、ドリル学習等に力を入れて取り組んでいますが、今後は、読書活動のより一層の推進や文章作成の機会の確保などを通して、文脈の中で漢字に触れる機会を増やしていきます。

算数科では、「変化と関係」や「データの活用」等の領域で特に課題がみられました。表やグラフ、式を相互に関連付けながら考える力を養う問題に取り組んでいくとともに、日常生活の具体的な場面でも数量関係やデータを意識させていくなどし、より身近に、より具体的に考えられるようにしていきます。

理科では、どの領域でも概ねよい結果がみられました。ただし、記述式の問題でやや正答率が低い傾向があります。観察のまとめや実験結果の考察などの場面で、必要な情報を適切に入れながら文章にまとめる力を付けていきます。

生活・学習の状況調査から、本校の児童の自尊心は概ね高いことがわかります。また、友達との関係も良好です。また、日ごろから読書に親しんでいる児童が多く、図書館教育の成果が出ていることがうかがえます。昨年に引き続き、地域や社会に積極的に関わっていきたいという児童が多く、ふるさとみらい科を中心とした地域学習の成果が出ています。